

7月6日 白鳥の湖 新聞記事

今回、私たちは、バレエ「白鳥の湖」益田公演の主役のお二人にインタビューをさせていただいた。公演終了後だったためか、お二人は肩で息をされていた。ほおが赤みがかかり、生き生きとした表情から、今回の舞台の成功がうかがえる。

まず、今回の舞台の役柄を演じるさい、気をつけたことをうかがった。お二人は顔を見合わせ、少し恥ずかしそうにはにかみ王子役の柄本さんから話し始めた。

「一幕と四幕とでは、全く違うように演じました。」

一幕から王子が成長していく様子を、まるで自分自身が王子かのように話された。柄本さんが王子の気持ちに寄り添い、王子になって踊られていたことがうかがえた。

上野さんは“白鳥らしさ”そして“人間”どちらも意識して踊らなければならない。“白鳥に変えられた人間”という役柄を冷静に分析されていた。あるときは“白鳥らしく”と思ったら、またあるときは“人間”になっていた。「多面性が出るようにしました。」そう語る上野さんは、トップダンサーとしての威厳を放っていた。

インタビューはあっという間に終わってしまった。しかし、お二人

と会えたことは私にとってとても大切な宝物となった。

公演終了後で疲れていたときに、インタビューを受けてくださったお二人、協力してくださったスタッフの皆さん。そしてグラントワの皆さん。本当にありがとうございました。

今回の主役のお二人。そして東京バレエ団の皆様のみずみずのご活躍をお祈りしている。

渡邊 詩花